

# 学生の英文ライティング力向上の分析 その5： 日本人学生に多いエラーの重点的指導， ルーブリックの導入，「内容の質」を測る自動評価 システムの導入によるライティングの変化

Analysis of Improvement in Students' English Writing Part 5: Changes  
in Writing after Intensive Instruction of Common Errors among  
Japanese Students, the Introduction of Rubric, and an Automated  
Scoring System for Measuring "Quality of Content"

三田 薫

英語コミュニケーション学科教授

霜田 敦子

英語コミュニケーション学科非常勤講師

## 抄録：

短期大学1年必修英語授業で、「内容の質」を含む「英文ライティング・ルーブリック」を配布して、それを繰り返し参照させながら指導を行った。さらに授業専用の「自動採点システム」を導入して学生に使用させた他、過去の学生の英文を典型事例として示した。その結果、事後のライティングテストでは、事前と比較して、語数、because断片文エラー、for exampleエラー、順序を表すディスコースマーカー、その他のディスコースマーカー、Topic Developmentにおいて大幅な改善が見られ、またbe動詞エラーにおいて一定の改善が見られた。学生アンケートでは、ルーブリック、自動採点システム、典型事例としての先輩学生の英文のいずれも、英文ライティング力向上のために有効に機能したと判断されるコメントが得られた。

## Summary：

In a required first-year English class at a junior college, we distributed an "English Writing Rubric" that included a "Quality of Content" section and instructed students by repeatedly referring to it. In addition, an "automatic scoring system" for the specific purpose in class was introduced and used by the students. Also, past students' English writing was

shown as exemplars. As a result, in the post-writing test, compared to the pre-test, there was a significant improvement in word count, errors in 'because' fragment sentences, errors in 'for example' sentences, discourse markers indicating sequence, other discourse markers, and in Topic Development. Additionally, there was a certain improvement in errors involving the 'be-verb (copula)." In the student questionnaires, the rubric, the automatic scoring system, and the exemplars of past students' English writing were all recognized as effective in improving English writing skills.

キーワード：第2言語ライティング，パラグラフ・ライティング，be動詞エラー，because断片文エラー，for exampleエラー，トピックの展開，ディスコースマーカー，ルーブリック，形成的評価，フィードバック，典型事例，自動採点システム

Keywords: L2 Writing, Paragraph writing, Be-verb error, Because fragment error, For example error, Topic development, Discourse marker, Rubric, Formative assessment, Feedback, Exemplar, Automated scoring system

## 1. はじめに

本稿は、日本人学生特有の弱点に絞った指導法を試みた初級学生のライティング力向上の実証研究（三田&霜田，2021a, 2021b, 2022a, 2022b）をもとに、新たにライティング評価のためのルーブリック（三田&霜田，2023b）およびその評価項目の一つである「内容の質」を測る自動採点システム（三田&霜田，2023a, in press）を指導に取り入れた授業の実践報告である。本稿の調査対象者は、短期大学必修英語科目 Integrated English<sup>1)</sup>を履修する1年生である。

第2節では、日本人学生に多いエラー、ルーブリック及び自動採点システムに関する先行研究を紹介し、第3節でリサーチクエスション、第4節で調査方法、第5節で調査結果を述べ、第6節で考察を行い、第7節でまとめる。

## 2. 先行研究

本調査のために授業の事前事後に行うライティングテストの評価観点のうち4項目は、Mita, K., Kubota, Y., & De Vera, L. (2018) で指摘されている日本語からの影響を要因とする特定のエラー、すなわち、日本語の干渉による以下の3つのタイプの動詞エラーと、文頭に置かれ主節のない because fragment である。初級学生が誤りやすい動詞エラーとは、1) Be-basic error (\*New Year is very busy.=We are very busy in the New Year.), 2) Heavy-

subject error (\*I would like to visit most is Kyoto.=The place I would like to visit most is Kyoto.), 3) Serial-verb error (\*Japanese is like rice.=Japanese like rice.) の3タイプの be 動詞誤使用である (関, 2006, 2007; 山内 & 内田, 2011). また, because fragment は多くの日本人学習者のライティングに見られ, 日本人に特有の誤用ではないかと指摘されている (小林, 2009). 小林はその原因を, 1) 日本語では「なぜなら, 私は夏が好きです」のような文章が許容されるため, 学習者がその日本語を直訳した英文 \*Because I like summer. を産出する, 2) 話し言葉における why で始める疑問文の答えとして許容されるため, 書き言葉との文体の違いを理解していない, 3) 近年多くの中学校検定教科書はコミュニケーションを重視しており, because の半数以上が会話部分における why で始まる疑問文の答えで主節を持たない文となっている, と分析している. 投野 (2007) の高校生によるエッセイのコーパスデータでは, because fragment が高校生のエッセイで 54.7% という高い頻度で出現している. 小林の調査でも, 中学生, 高校生, 大学生の because で始まる断片文の頻度はそれぞれ 93.1%, 88.31%, 83.03% という結果となり, 大学生でも依然高いままであることが明らかになった.

「英文ライティング・ループリック」は本研究のライティング指導時に導入し, 教師が評価する目的と同時に学生がライティングテストを行う際の指標として用いた. ライティング評価のようなパフォーマンス評価においてはループリックが有効であるとする多くの研究がある (安藤, 2014; 松下, 2014; 吉田, 2011; Panadero, E., & Jonsson, A., 2013; Rust, C., Price, M., & O'Donovan, B., 2003; Wiseman, 2012). 日本においても独自のループリックの導入を試み, その効果を検証し課題を指摘する研究が行われている (江口, 2012; 坂本, 2019; 丹原他, 2020; 平林, 2016; 脇田, 2016). 三田 & 霜田 (2022a) で作成したライティング用のループリックは汎用性のあるものではなく, 個々の学生や授業に合わせた形成的評価<sup>2)</sup>として使用できるものとなっており, 2023年度の授業でも引き続き指導に使用した. 評価項目は, 1) 総語数 (fluency), 2) be 動詞エラー, because エラー, for example エラー (for example エラーは多発するため追加), 3) ディスコースマーカー数, 4) 内容の質 (Topic Development), 5) mechanics の5項目で20点満点である (Appendix). 「内容の質」は Wiseman (2012) の analytic scoring rubric の contents に関わる項目 Topic Development を応用し detail 文の充実度を基準としている.

ライティング評価にかかる時間と労力という問題を解消するため様々な自動採点システム (Automated Writing Evaluation: AWE) が開発され検証されてきた (Weigle, 2013; Li, Link, & Hedleheimer, 2015; 石井 & 近藤, 2020; 小林 & 石井, 2019). ライティングを自動採点するシステムはすでに世界的に実用化されている (e-rater, Criterion, Write & Improve, etc.) が, どれも主に英語母語話者向けで日本の一般的な学生が使うには課題が多いという指摘がある (Iwanaka, 2016; 岩中, 2017; 齊藤, 2017; Dikli, 2010; Weigle, 2013). なかでも採点が難しいのは, 主観的であいまになりがちな「内容の質」をどのように測るかという問題である. 三田 & 霜田 (2023a) では, 作成した「ライティングテストのループリック」の項目の一つ「内容の質」に絞った自動採点システムの開発を試みた. 本研究でも引き続きこの自動採点システム

を指導に用い、「内容の質」の改善にどのように役立ったかを検証した。

筆者らが開発した「内容の質」を測る自動採点システムにはフィードバック機能として、過年度の学生が書いた英文のうち優れたものを修正した上モデル英文として画面に出力できるようにした。フィードバックが学習改善に結びつくためには、学習者の現在の到達度合いとともに、目標と現状の間にはどの程度の差があり、その差を埋めるためにはどのような行動が必要なのか情報が示される必要がある（西岡他、2015）。これを実現するために開発した自動採点システムでは、学生が自分の英文を自動採点システムに入力すると、内容についての評価得点と同時に一つ上のレベルのモデル英文を見ることができるようにした。モデル英文はパフォーマンス評価における典型事例（exemplars）に該当し、学習者が目指す見本として自己評価力を高める機能として働くことが期待されるものである（岩田、2020, 2022; 丹原他、2020）。

### 3. リサーチクエスチョン

- (1) ライティングの fluency は事前・事後でどのように変化したか。
- (2) 日本人学生特有のエラーの重点指導は、学生のライティングにどのような変化をもたらしたか。
- (3) ライティングの内容の質を高める重点指導は、学生のライティングにどのような変化をもたらしたか。
- (4) ルーブリック、自動採点システム、英文を書くことについての自信に関して学生のアンケートからわかったことは何か。

## 4. 調査方法

### 4. 1. 調査対象者

本稿の調査対象者は、短期大学必修英語科目 Integrated English を履修する 1 年生のうち、入学前（3 月）に実施した GTEC Academic を受検し、さらに前期始め（4 月）と後期末（12 月あるいは 1 月）の 2 回のライティングテストを受検した学生 88 名である。対象学生の学科内訳は、日本語コミュニケーション学科 51 名、英語コミュニケーション学科 37 名である。第 5.8 節以降のテキストマイニングのデータは、後期末（12 月あるいは 1 月）のライティングテストを受検した 100 名を対象としている。学生の大多数の英語レベルは CEFR A2 レベルである（GTEC Academic 2 技能試験 Listening & Reading の結果に基づく）。

### 4. 2. 調査内容と調査項目

#### 4. 2. 1. ライティングテストの実施方法、トピックと指示

ライティングテストは、前期始めと後期末の 2 回とも教室で実施した。具体的には学習管理

システム (LMS) の manaba ver.2.95 (朝日ネット) を用いて受検させた。

ライティングテストの所要時間はブレインストーミングを含めて20分間であり、テスト用画面には、ライティングの入力スペースだけではなく、受検者個人のブレインストーミング内容を記録するスペースも設けた。ライティングテストのトピックは「好きな場所」である。エッセイの指示文は以下の通りである。

ライティングテストトピック「好きな場所」

自分の行ってみたいところを決め、その場所と、行きたい理由を3つ書いて下さい。海外でも国内でも結構です。以下の表現で始めてください。

The place I would like to visit most is (            ). There are three reasons.

#### 4. 2. 2. 調査項目の設定

リサーチクエスト (1) (2) (3) に関わる調査では、学生の前期始め (4月) と後期末 (12月あるいは1月) のライティングテストの結果を用い、「ライティングテストのループリック」 (Appendix) に含まれる各項目について比較した。リサーチクエスト (4) については、後期末に選択回答式と自由回答式のアンケート調査を行った。

#### 4. 2. 3. 分析方法

リサーチクエスト (1) (2) (3) については、調査対象学生の1回目 (前期始め, 4月) と2回目 (後期末, 12月あるいは1月) のライティングテストの英文を、以下の7項目で調査した。

項目1. 1回目, 2回目のライティングにおける平均語数

項目2. 「be 動詞エラー文の数」

以下の例に見られるような3種類の be 動詞エラー文の数をカウントする。

1. Be-basic: “The place is a lot of visitors.” “New Year is busy.”

2. Heavy-subject: “I like Yokohama Places is Minato Mirai.”

3. Serial-verb: “Takeshi was lived in Nerima.”

項目3. because の断片文エラーの数

以下の例に見られるような because の断片文エラーの数をカウントする。

“I want to go to Hawaii. Because I want to study English there.”

項目4. for example エラーの数

以下の例に見られるような for example 文エラーの数をカウントする。

“Hawaii has many delicious foods. For example, pancakes and loco moco.”

項目5. 順序を表すディスコースマーカーの有無

エッセイの基本構成のうち、Body (本論) 部分で supporting sentence の順番を示すマーカー (First, Second, Third あるいは Finally) が、「無い、または不完全」な

ものを「0」, 「すべて有る」ものを「1」とした。

#### 項目 6. その他のディスコースマーカー

以下の表1の主要なディスコースマーカーのうち, 「順序」の表現以外のマーカーの数をカウントする。

表1 主要なディスコースマーカー

種類	使用頻度の高い表現	同様の特徴的表現
反意的	However,	Yet, Nevertheless,
対照の導入	While	Instead, On the other hand, In contrast,
譲歩	Although	Though, Even though
付加的	Moreover, Also,	Furthermore, In addition, Additionally, Besides,
例示	For example,	For instance, such as
時間, 順序	Now, First, Second, Third, Finally,	Nowadays, Recently, Firstly, First of all, At first, Then, After that, Lastly, At last,
理由	as	because, since
因果的	Therefore, Consequently,	Thus, Accordingly, As a result,
結論, まとめ	In conclusion, In summary, For these reasons,	To conclude, To sum up,
代替を表す	Otherwise,	
強調	Especially, In particular,	Of course,

(cf. 中谷, 2020, p.36)

#### 項目 7. Topic Development

Detail 文 (詳しい説明や具体例を挙げて主張に説得力を与える文) の有無により 5 段階で評価する。以下は, それぞれの段階の評価を受けた学生の英文である。文法エラーをそのまま残してある。

##### 【Level 0】理由が2つで未完成

Tha place I would like to visit most is Kyoto. There are three reasons. Because I love Japanese history. Japanese history is very beutiful. Japanese culture is interesting. I looking for history belit.

##### 【Level 1】Detail 文が無いもの

The place I would like to visit most is Okinawa.

There are three reasons.

First, I want to swim in the beautiful sea.

Second, I want to eat Okinawa food.

Third, I want to go to Churaumi Aquarium.

For these reasons I want to go to Okinawa. (47 words)

**【Level 2】** Detail 文が少しあるが内容が限定的なもの

The place I would like to visit most is Okayama. There are three reasons.

First, Okayama has a lot nature and is beautiful. There are many mountains and the air is beautiful.

Second, Okayama has a lot of delicious food. The fruits are especially delicious.

Finally, I have a lot of friends in Okayama that I love. We have been together for long time, so we are good friends.

For three reasons, I would like to visit Okayama. (78 words)

**【Level 3】** Detail 文が複数ありトピックが発展し内容が深まったと考えられるもの

I want to visit the most is Hokkaido. there are three reasons. First, there are many delicious foods. The climate is good for growing vegetables. So, farmers in Hokkaido can get good vegetables. Second, it is the most popular tourist spot in japan. If we travel abroad, we have to prepare passport and a lot of money. On the other hand, If we go go to Hokkaido, We can go to trip for chirper and shorter than go abroad. Finally, I want to see Goryokaku. I know it by comics. was surprised that the shape is like a ster. In these reasons, I want to visit Hokkaido. (107 words)

**【Level 4】** Level 3 の中で特に優れているもの

The place I would like to visit the most is Okinawa. There are three reasons.

First, I love Okinawan food. For Instance, I love Okinawan soba. When I was in elementary school, I went to Okinawa and had it for the first time. It was great. Therefore, I want to eat it again. In addition, it is said that tropical fruits are delicious in Okinawa. I like fruits such as mangoes and pineapples. Thus, I would like to try it there.

Second, I would like to experience the culture and history of Okinawa. I'm interested in Okinawan culture and history because they are unique. I want

to experience them there. For example, I would like to visit Himeyuri Tower and learn about Okinawa War. Moreover, I Would like to try Eisa dancing.

Third, Okinawa is rich in nature. Okinawa is famous for its beautiful beaches and blue ocean. I would like to get touch in with the nature of Okinawa and get rid of my fatigue. Especially, I would like to visit Sezoko Island because it is said to have the most beautiful sea.

For these reasons, I would like to visit Okinawa the most. (195 words)

リサーチクエスチョン (4) については、選択回答式と自由回答式の学生アンケートの分析を行った。選択回答式アンケートの質問は、「授業の英文ライティング指導で役に立った項目」、「ライティングテストのループリックが役立ったか否か」、「自動採点システムは役に立ったか否か」、「英文を書くことについての自信」である。自由回答式アンケートは「ループリックの役に立った点」、「ループリックの感想」、「モデル英文で参考になったこと」、「自動採点システムの感想」である。自由回答の質的なデータについては、自由回答の頻出語として抽出された単語同士の関係性を可視化するために共起ネットワーク分析を行った。テキストマイニングには、KH Coder 3を使用した<sup>3)</sup>。

## 5. 調査結果

5.1 節から 5.7 節は、「4. 調査方法」に従って得られた調査結果を示す。以下、語数、be 動詞エラー、because エラー、for example エラー、順序を表すディスコースマーカー、その他のディスコースマーカー、Topic Development について、調査対象者 (2023 年度 1 年生) の事前 (前期始め, 4 月)、事後 (後期末, 12 月あるいは 1 月) の結果を報告する。

5.8.1 節は、選択回答式アンケートの結果を紹介する。5.8.2 節は、ループリック、モデル英文、自動採点システムについての自由記述をテキストマイニング分析した結果を紹介する。

### 5. 1. 語数

事前事後のライティングテストの総語数、平均語数と標準偏差を表 2 に示した。前後語数比は 1.96 倍である。

表 2 ライティングテストの事前・事後の総語数と平均語数 (n=88)

	総語数	平均語数	SD
事前	5216	59.27	22.7
事後	10227	116.22	37.0

語数についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1% 水準で有意であった ( $t(87) = 14.573, p < .001$ )。



### 5. 2. be 動詞エラー

各ライティングテストで「be 動詞エラー」が出現したエッセイと出現しなかったエッセイの数を表 3 に示した。

表 3 be 動詞エラーのあったエッセイとなかったエッセイの数 (n=88)

	エラー有りエッセイ	エラー無しエッセイ	合計
事前	45	43	88
事後	59	29	88

「be 動詞エラー」の出現エッセイ数は事前 (45 件) よりも事後 (49 件) が多くなっている。しかし 100 語あたりの「be 動詞エラー」数を比較したところ、表 4 に示す通り、1.21 から 0.86 に減少している。

表 4 エッセイの総語数, be 動詞エラー総数, 100 語あたりの be 動詞エラー平均

	総語数	be 動詞エラー総数	100 語あたりの be 動詞エラー数
事前	5216	63	1.21
事後	10227	88	0.86

### 5. 3. because の断片文エラー

各ライティングテストで because の使用エッセイ数と、その中の because 断片文エラーを含むエッセイ数を調べたところ、表 5 と図 1 の結果となった。

表 5 because 断片文エラーを含むエッセイの because 使用エッセイに対する割合 (n=88)

	because の 不使用エッセイ数	because の 使用エッセイ数	because 断片文 エラー 使用エッセイ数	because を含むエッセイのうちの because 断片文エラー を使用したエッセイの割合
事前	56	32	29	91%
事後	51	37	11	30%

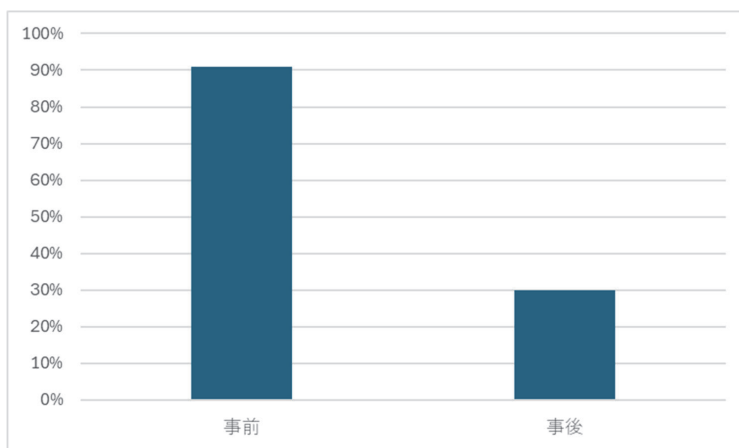


図1 because 断片文エラーを含むエッセイの because 使用エッセイに対する割合 (n=88)

#### 5. 4. for example エラー

各ライティングテストで for example の使用エッセイ数と、その中の for example エラーを含むエッセイ数を調べたところ、表6および図2の結果となった。

表6 for example エラーの for example 使用エッセイ数に対する割合 (n=88)

	for example の 不使用エッセイ数	for example の 使用エッセイ数	for example エラー 使用エッセイ数	for example を含むエッセイの うちの for example エラーを 使用したエッセイの割合
事前	76	12	11	92%
事後	54	34	9	26%

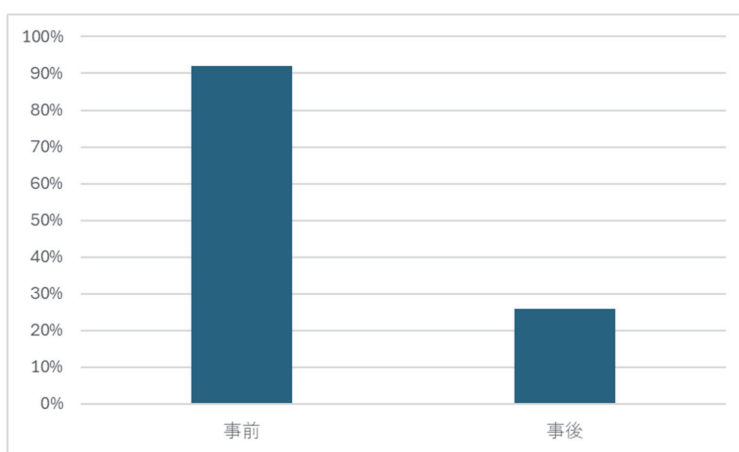


図2 for example エラーを含むエッセイの for example 使用エッセイに対する割合 (n=88)

### 5. 5. 順序を表すディスコースマーカー

「順序を表すディスコースマーカー」の事前事後のライティングテストでの有無の実数を表7に示した。

表7 順序を表すディスコースマーカーの有無 (n=88)

	順序を表すディスコースマーカー無し	順序を表すディスコースマーカー有り	計	割合
4月	13	75	88	85.2%
1月	1	87	88	98.9%

事前事後の順序を表すディスコースマーカーの有無についての事前事後の  $t$  検定の結果は、1%水準で有意であった ( $t(87) = 3.393, p < .01$ )。

### 5. 6. その他のディスコースマーカー

「その他のディスコースマーカー」の各ライティングテストでの出現数ごとのエッセイ数を表8に示した。

表8 「その他のディスコースマーカー」の出現数ごとのエッセイ数

	0	1	2	3	4	5	6	7	8	計
事前	41	37	9	1	0	0	0	0	0	88
事後	18	19	21	12	9	7	1	0	1	88

事前・事後のマーカーの総数と1エッセイあたりの平均は以下の表9のとおりである。

表9 総マーカーの数と1エッセイあたりの平均 (n=88)

	総マーカー数	平均
事前	58	0.66
事後	182	2.07

事前では「その他のディスコースマーカー」を1つも含まないエッセイが41件あったのに対し、事後では18件に減っている。またマーカー総数は58個から182個、3.1倍に増えた。「その他のディスコースマーカー」の出現数についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(87) = 7.249, p < .001$ )。

## 5. 7. Topic Development

各ライティングテストの「Topic Development」の評価ごとのエッセイ数を表10および図3に示した。

表10 「Topic Development」の評価ごとのエッセイ数 (n=88)

	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	合計
事前	5	27	35	18	3	88
事後	2	2	15	26	43	88

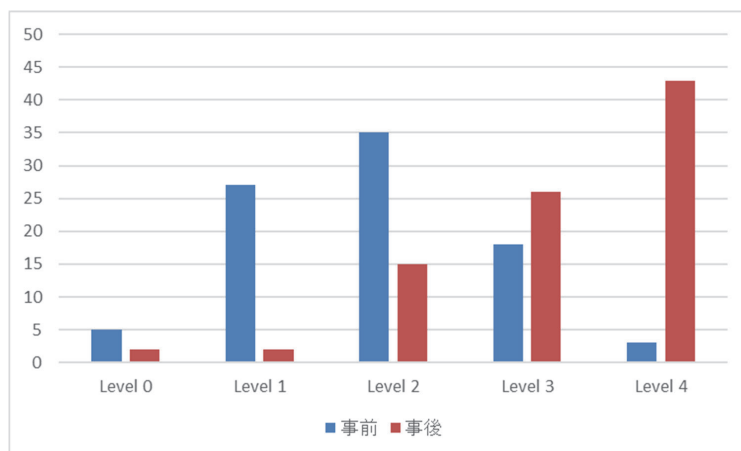


図3 Topic Development の事前事後のレベル別エッセイ数

Topic Development についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(87) = 11.277, p < .001$ )。以下、表11, 13, 15は、各年度のレベル別のエッセイ数、表12, 14, 16は各年度のレベル別のエッセイ数の割合を表している。2021年度は自動採点システムとモデル英文が導入される前、2022年度、2023年度は導入された後の結果である。

表11 2021年度のレベル別エッセイ数

2021年度	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	総数
4月	43	52	53	18	2	168
1月	21	6	35	66	40	168

表12 2021年度のレベル別エッセイ数の割合

2021年度	Level 0 (%)	Level 1 (%)	Level 2 (%)	Level 3 (%)	Level 4 (%)	合計
4月	26%	31%	32%	11%	1%	100%
1月	13%	4%	21%	39%	24%	100%

表 13 2022 年度のレベル別エッセイ数

2022 年度	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	総数
4 月	22	34	67	4	0	127
1 月	4	3	18	40	62	127

表 14 2022 年度のレベル別エッセイ数の割合

2022 年度	Level 0 (%)	Level 1 (%)	Level 2 (%)	Level 3 (%)	Level 4 (%)	合計
4 月	17%	27%	53%	3%	0%	100%
1 月	3%	2%	14%	31%	49%	100%

表 15 2023 年度のレベル別エッセイ数

2023 年度	Level 0	Level 1	Level 2	Level 3	Level 4	総数
4 月	5	27	35	18	3	88
1 月	2	2	15	26	43	88

表 16 2023 年度のレベル別エッセイ数の割合

2023 年度	Level 0 (%)	Level 1 (%)	Level 2 (%)	Level 3 (%)	Level 4 (%)	合計
4 月	6%	31%	40%	20%	3%	100%
1 月	2%	2%	17%	30%	49%	100%

## 5. 8. 学生アンケート結果

後期末（12 月あるいは 1 月）に選択回答式と自由回答式の学生アンケートを行った。

### 5. 8. 1. 学生アンケート選択回答式結果

選択回答式アンケートのうち授業の英文ライティング指導で役に立ったものについては、表 17 の結果となった。

「授業では、前後期を通じて、英文ライティング力強化に力を入れてきました。その中で特に役に立ったと感じるものを選んでください（複数選択可）。役に立ったものが無ければ、無しを選択してください。」

表 17 英文ライティング強化に役に立った項目 (n=88)

項目	件数
1. 指定文法エラー (because, for example, be 動詞エラーなど)	62
2. ディスコースマーカーの使い方	56
3. 3つの論理 (抽象と具体, 対比, 因果関係)	34
4. パラグラフ・ライティングやエッセイライティングの方法	16
5. Topic Development の detail 文の充実のさせ方	6
6. 無し	0
計	168

学生に配布したライティングテストのルーブリックが役立ったか否かについては、表 18 の結果となった。

「授業中に配布したライティングテストのルーブリックは自分のライティング力向上に役に立ちましたか。」

表 18 ルーブリックは役に立ったか (n=88)

項目	件数
1. 役に立った	70
2. 役に立たなかった	6
3. どちらでもない	12
計	88

英文ライティングの自動採点システムが役立ったか否かについては、表 19 の結果となった。

「ライティングテストの自動採点システムは自分のライティング力向上に役に立ちましたか。」

表 19 自動採点システムは役に立ったか (n=88)

項目	件数
1. 役に立った	67
2. 役に立たなかった	2
3. どちらでもない	19
計	88

事前 (4月)・事後 (12月あるいは1月) のライティングテスト終了後に、「英文を書くことについての自信」について、以下の設問でアンケートを行った。

「英文を書くことについての自信はどのくらいありますか。」

1. 英文を書くことは苦手だし全く自信がない
2. 英文を書く練習をしてきたので少し自信がついている

3. 英文を書く練習を続けてきたので結構自信がついている
4. 英文を書く自信がつき、機会があれば書いてみようと思っている
5. 英文を書く自信がつき、自主的に英文を書くようになっている

表20および図4は「英文を書くことについての自信」についてのアンケート結果を示したものである。「英文を書くことについての自信」についての事前事後の  $t$  検定の結果は、0.1%水準で有意であった ( $t(87) = 6.805, p < .001$ )。

表20 「英文を書くことについての自信」についての事前事後人数と割合 (n=88)

	事前人数	事後人数	事前割合	事後割合
1	70	24	80%	27%
2	14	51	16%	58%
3	3	3	3%	3%
4	0	9	0%	10%
5	1	1	1%	1%
合計	88	88	100%	100%

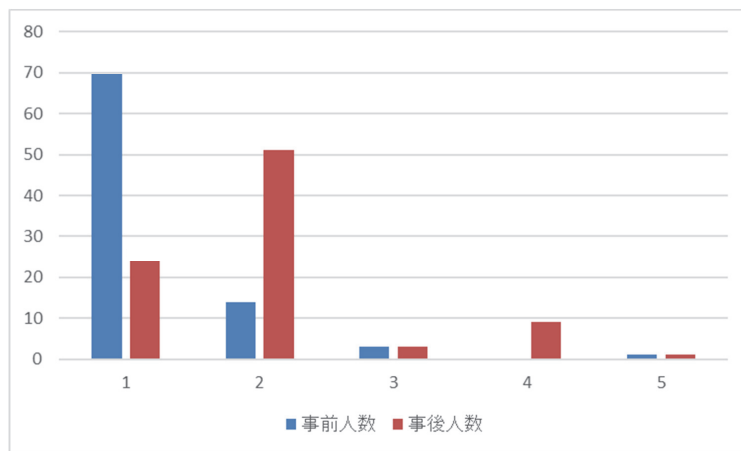


図4 「英文を書くことについての自信」についての事前事後回答人数 (n=88)

### 5. 8. 2. 学生アンケート自由回答式結果

ループリック、自動採点システム、モデル英文についての学生アンケートのテキストマイニング分析の結果を紹介する。共起ネットワーク分析では、丸 (node) の大きさが大きいほどその単語が多く出現していることを表している。共起ネットワークの中に現れる結びつきの強さを表す各サブグループの主要な原文も抜粋した。アンケートの質問は以下の4問である。

- 問1. ライティングテストのループリックが役に立ったと思う人は、どのような点で役に立ったかを書いてください。役に立たなかった人は、無しと書いてください。

- 問2. ライティングテストのループリックについての感想を自由に書いてください。  
 問3. 自動採点と共に表示される2つのモデル英文の感想を書いてください。モデル英文は、過年度の先輩のエッセイです。参考になったと思う人は、具体的に何が参考になったかを書いてください。  
 問4. 自動採点システムについての感想を自由に書いてください。

### 5. 8. 2. 1. 「ループリックが役に立ったと思う点」

質問1「ライティングテストのループリックが役に立ったと思う人は、どのような点で役に立ったかを書いてください。役に立たなかった人は、無しと書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は1,740語（107文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「英文」（24回）、「ディスコースマーカー」（22回）、「エラー」（18回）、「書く」（16回）、「自分」（15回）であった。

KH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で、「ディスコースマーカー」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパンニングツリーだけを描画」を選択して共起ネットワークを作成したところ、ループリックの役立った点に関して5つのサブグループが形成された（図5）。

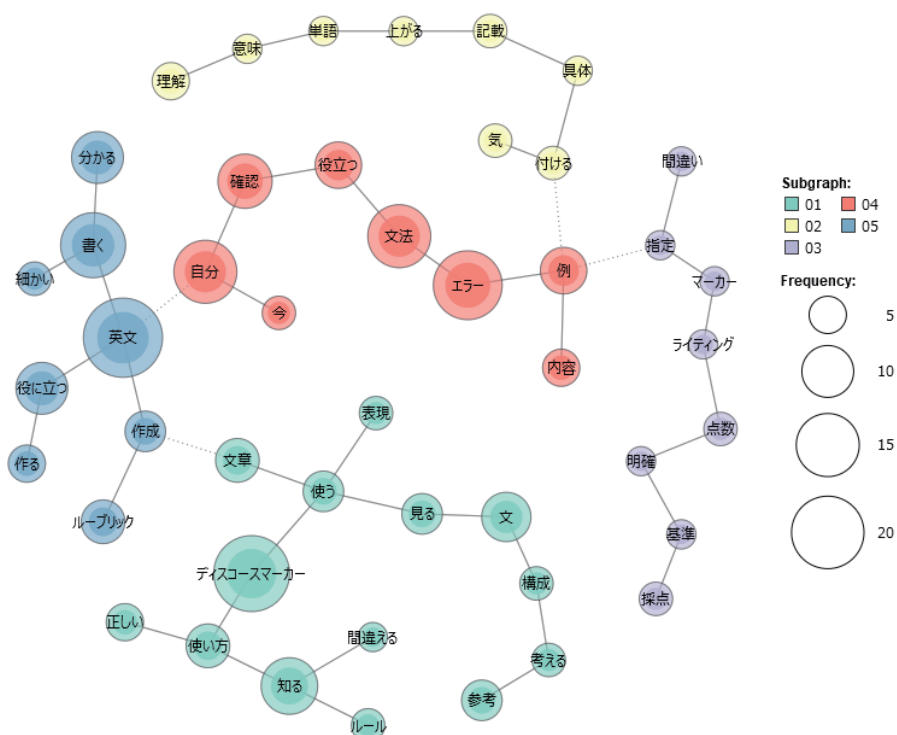


図5 「ループリックが役に立ったと思う点」自由回答の共起ネットワーク（n=100）



ループリックの役に立った点について、1つ目のサブグループでは、「ディスコースマーカー」、「使い方」、「正しい」、「表現」、「構成」が示され、学生はディスコースマーカーの正しい使い方、文の表現や構成についてループリックを参考にしていることが推測される。2つ目のサブグループには「具体」、「気」、「付ける」、「記載」、「上がる」、「理解」が示されており、ループリックに評価項目が具体的に書かれているため何に気を付けるべきか、さらにどうすれば点数が上がるのかを理解する上で役に立ったとしていることがわかる。3つ目のサブグループでは「点数」、「明確」、「基準」、「採点」、「ライティング」、「マーカー」、「指定」、「間違い」が示され、ループリックを使って自分の英文を自己採点し、間違いを確認する学生がいることがわかる。4つ目のサブグループには「エラー」、「例」、「内容」、「文法」、「役立つ」、「確認」が示され、文法エラーの例で誤った使い方を確認できる点が役立ったことがわかる。5つ目のサブグループには「英文」、「書く」、「細かい」、「分かる」、「役に立つ」、「作る」が示されていることから、ループリックの細かい解説が英文作成に役立ったことが推測される。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. ライティングテストのループリックで役に立った点は、ディスコースマーカーの使い方です。ディスコースマーカーを使いこなすことで英文作成の際に参考になったし、積極的にディスコースマーカーを取り入れることで英文が読みやすくなったからです。
2. 1点1点細かくどこをどう書いていたら○点と記載されており、今の自分の英文が何点でどこをどう工夫したら1点上がるのかを考察、想像しやすかったから。
3. 自分が作成した英文を見ながら、何をすれば点数がもらえるのか、あと何があれば点数がもらえるのかなど見たり、探したりするときに楽しかった。わからないことも紙を見ればどのような文章で書けばいいのかわかりました。
4. 指定文法エラーの例がまとめられていることが間違いを防ぐことに役立ったと思う。
5. より正確でしっかりと内容のある英文を作り上げるために、気を付けるべき点などが細かく書いてあり、ディスコースマーカーの具体例なども載っていたので英文を作る際にとっても役に立った。

#### 5. 8. 2. 2. 「ループリックについての感想」

質問2「ライティングテストのループリックについての感想を自由に書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は1,962語（119文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「書く」（25回）、「英文」（21回）、「ループリック」（17回）、「自分」（14回）、「見る」（13回）であった。

感想に使われる一般的な語「思う」をKH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で使用しない語に指定し、「ディスコースマーカー」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択して共起ネットワークを作成したところ、ループリックの感想に関して7つのサブグループが形成された（図6）。

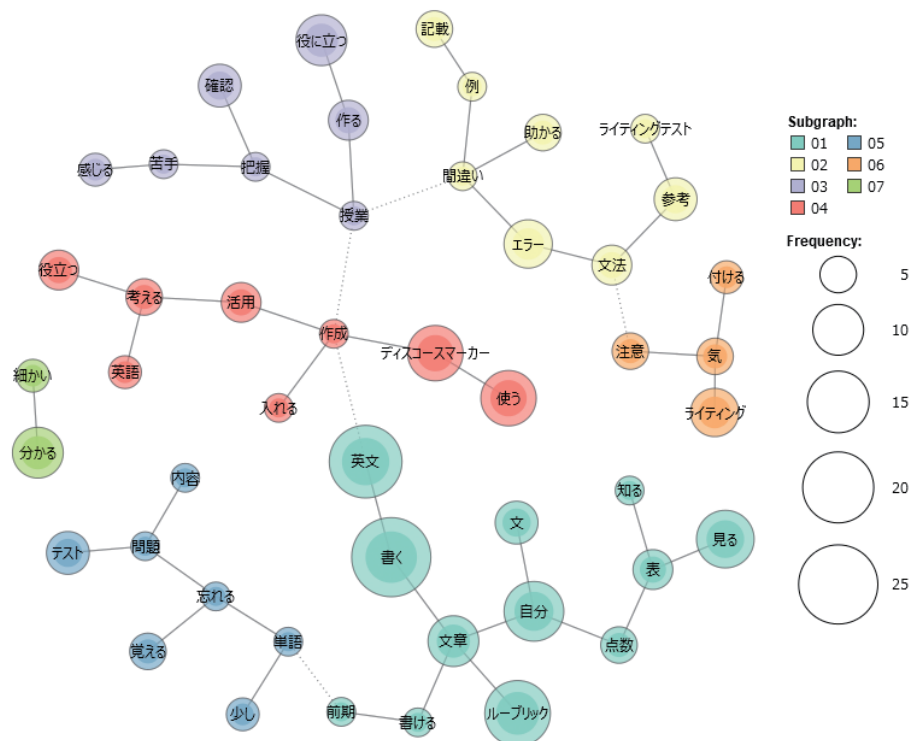


図6 「ループリックについての感想」自由回答の共起ネットワーク (n=100)

ループリックの感想に関しては、1つ目のサブグループでは、「書く」、「英文」、「文章」、「ループリック」、「点数」、「表」、「見る」、「知る」が示され、ループリックによって自分の書く英文がどこで点数につながるか知ることを挙げている。2つ目のサブグループには「ライティングテスト」、「参考」、「文法」、「エラー」、「間違い」、「例」、「記載」、「助かる」が示されており、ループリックに注意すべき間違いが例とともに記載されておりライティングテストに役立ったことを指摘している。3つ目のサブグループでは「役に立つ」、「作る」、「授業」、「把握」、「苦手」、「感じる」、「確認」が示され、ライティング時に苦手と感じる部分で注意する点を確認できることが役に立ったと感じていることが推測される。4つ目のサブグループには「ディスコースマーカー」、「使う」、「作成」、「活用」、「考える」、「役立つ」が示され、ループリックの中で特にディスコースマーカーが役立ったことがわかる。5つ目のサブグループには「テスト」、「問題」、「忘れる」、「単語」、「少し」が示され、ループリックを見てライティングテストに活用したことがわかる。6つ目のサブグループには「ライティング」、「気」、「付ける」、「注意」が示され、ループリックが英文を書く上で注意すべきところに気を付けることに役に立ったことが推測される。7つ目のサブグループには「分かる」、「細かい」が示され、ループリックの項目が細かく書かれていることがわかりやすいことが評価されていることがわかる。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. 表になっていて見やすく、どれだけ自分の書く文が点数をとれるのか知ることが出来て良かったです。
2. ルーブリックがあったことで、どのような間違いに注意を払えばいいのかが分かりやすかった。ルーブリックに基づいて文法エラーに関する授業があったため、学びを深めることができたと思う。
3. 自分自身で点数を取ることができると思えるところを確認することができ、苦手だと感じるところでは、どのような点で注意をするべきなのかを把握し、練習に役立てることができました。
4. 全体的にわかりやすくまとめられていて自分で文章を考える際にも役に立ったしディスコースマーカーをたくさん覚えて活用することができたので良かったです。覚えたディスコースマーカーはこれからのライティングに役立つと思うので英作文を書くときに使いたいです。
5. ライティングテストに関するいろいろな情報を一枚にまとめてくれていて助かった。
6. ライティングのルーブリックがあることで、注意するところに気を配りながら英文を書けたと思いました。
7. 採点の基準やアドバイスが細かく書かれていて、とても分かりやすかったです。

### 5. 8. 2. 3. 「先輩のモデル英文についての感想」

質問3「自動採点と共に表示される2つのモデル英文の感想を書いてください。モデル英文は、過年度の先輩のエッセイです。参考になったと思う人は、具体的に何が参考になったかを書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は2,222語（115文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「参考」（37回）、「自分」（34回）、「書く」（32回）、「英文」（30回）、「具体」（21回）であった。

「分析に使用する語の取捨選択」をせず共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択して共起ネットワークを作成したところ、モデル英文の参考になったことに関して6つのサブグループが形成された（図7）。

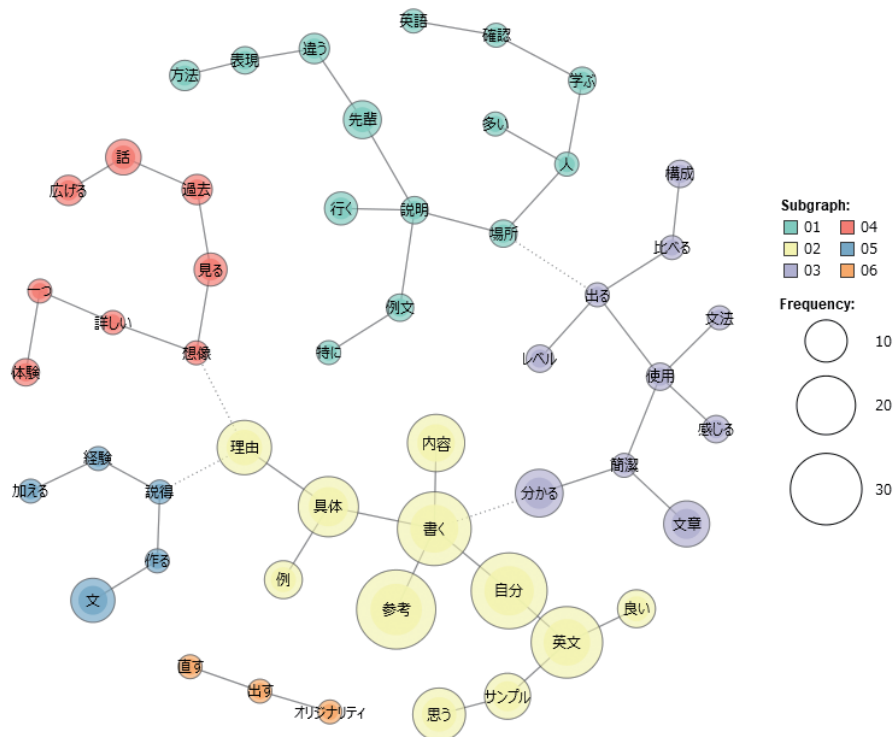


図7 「モデル英文で参考になったこと」自由回答の共起ネットワーク (n=100)

モデル英文で参考になったことに関しては、1つ目のサブグループでは、「説明」、「例文」、「先輩」、「違う」、「表現」、「方法」、「場所」、「人」、「学ぶ」、「確認」が示され、先輩のモデル英文の様々な表現方法を参考にしたことがわかる。2つ目のサブグループには「書く」、「参考」、「内容」、「具体」、「理由」、「自分」、「英文」、「サンプル」が示されており、モデル英文から自分で思いつかなかったような内容の深め方、具体例や理由を読んで参考にしたことがわかる。3つ目のサブグループでは「使用」、「簡潔」、「文法」、「出る」、「レベル」、「比べる」、「構成」が示され、自分のレベルより1つ上のレベルのモデル英文が表示されるので、自分に何が足りないかを知る上で参考になったとしている。4つ目のサブグループには「体験」、「詳しい」、「想像」、「過去」、「話」、「広げる」が示され、過去の体験から話を広げることを学んだことがわかる。5つ目のサブグループには「文」、「作る」、「説得」、「経験」、「加える」が示され、説得力のある文を作るために自分の経験を加えるという方法を参考にしたことがわかる。6つ目のサブグループには「オリジナリティ」、「出す」、「直す」が示され、モデル英文のオリジナリティの出し方が参考になったことが推察される。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. その人特有の話題が入っていて、おもしろい文章が多く、どのように書けばよいのか学ぶことができた。
2. 自分の英文に足りなかった具体的な例や独特な理由が書いてあって、説得力が増して英文を作る際に、とても参考になった。
3. 自分の書いた英文よりもレベルの高い英文を見ることができるので、そのサンプルを参考にして考え直すことで自分自身の英文をより内容の濃いまとまった英文に仕上げることができたのでとても参考になりました。
4. 一つの理由で深く話を広げていると思いました。自分の過去の体験談や、見たこと、聞いたことなど、聞いている側も想像ができるような詳しい内容が書いてあったと思います。
5. 自分の過去に経験したこと、エピソードなどに基づいて理由を書いているため、説得力があり、話が分かりやすい。
6. 自分ではどのようにして英文にオリジナリティを出したら良いかがわからなかったため、サンプルを参考にできてとても便利だと思った。

#### 5. 8. 2. 4. 「自動採点システムについての感想」

質問4「ライティングテストの自動採点システムについての感想を自由に書いてください。」に対する学生の自由記述回答の総抽出語数は2,267語（116文）であった。抽出語の頻出語上位5件は「自分」（46回）、「英文」（37回）、「採点」（26回）、「書く」（19回）、「便利」（16回）であった。

感想に使われる一般的な語「思う」をKH Coderの「分析に使用する語の取捨選択」で使わない語に指定し、「自動採点システム」を強制抽出する語に指定した。さらに共起性の強い線だけの描画に絞る「最小スパニングツリーだけを描画」を選択して共起ネットワークを作成したところ、ループリックの感想に関して7つのサブグループが形成された（図8）。

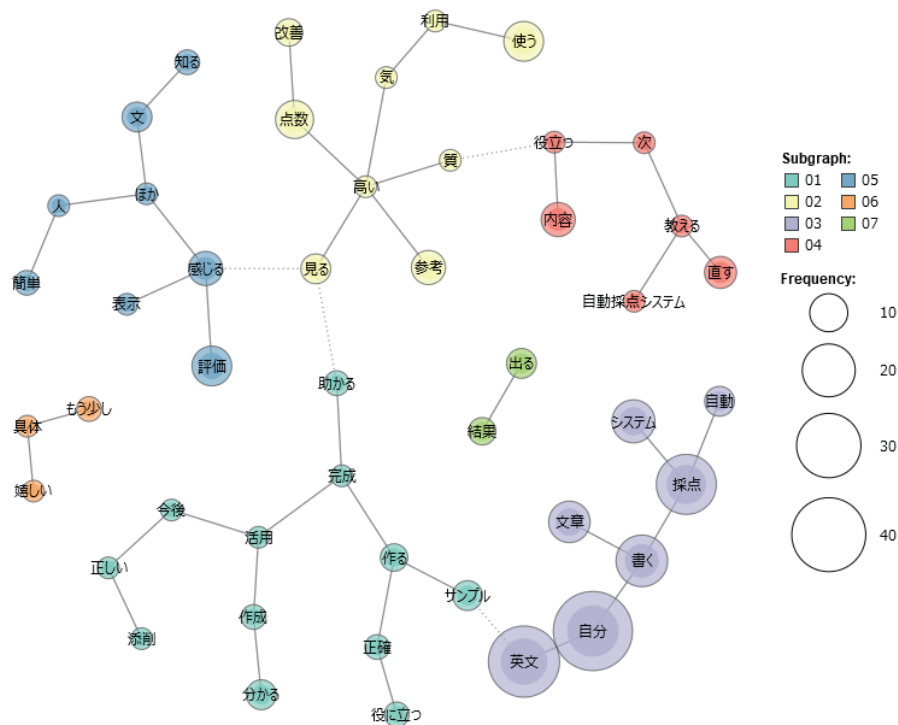


図8 「自動採点システムについての感想」自由回答の共起ネットワーク (n=100)

自動採点システムの感想に関しては、1つ目のサブグループでは、「完成」、「助かる」、「活用」、「今後」、「正しい」、「添削」、「作成」、「分かる」、「作る」、「サンプル」、「正確」、「役に立つ」が示されていることから、自動採点システムで完成度の高い英文を作ることができるため今後も活用したいと感じていることが推測される。2つ目のサブグループには「高い」、「点数」、「改善」、「参考」、「質」、「気」、「利用」、「使う」が示されており、内容の質を点数化するシステムを評価していることがわかる。3つ目のサブグループでは「自分」、「英文」、「書く」、「文章」、「採点」、「システム」、「自動」が示され、自分が書いた英文が即時に採点されるため自動採点システムは役立つと感じていることがわかる。4つ目のサブグループには「教える」、「直す」、「次」、「役立つ」、「内容」が示され、このシステムで直すべき点に気づき、次回からのミスの減少に役立つと感じていることが推測される。5つ目のサブグループには「評価」、「感じる」、「表示」、「ほか」、「人」、「簡単」、「文」、「知る」が示され、モデル英文で他の人の文を見ることが良い勉強になると感じている。6つ目のサブグループには「具体」、「もう少し」、「嬉しい」が示され、今後の自動採点システムに良かった点や具体的な改善点の提示を望んでいるという感想もある。7つ目のサブグループには「結果」、「出る」が示されていることから、即座に評価結果が表示されることが良いと思っていることがわかる。以下は各サブグループのコメントの抜粋である。

1. 書いた英文を採点してくれるだけでなく、なぜこのような点数になったのかを知ることができ、自分の英文よりも質の高い2つのサンプル英文を見ることができるので参考にして書き直すことでより完成度の高い英文を作ることができるので、英文作成をした際に活用していきたいと思います。
2. ・テストを受けても内容の点数はわからないため、英文作成の練習時に内容を数値化してくれて非常に便利だった。何回もシステムにかけて内容を精査していったので、これからもこのシステムは必要であると思う。  
・文法の採点は Grammarly でやってもらえるけど、内容の質を採点してもらえるものは、なかなか無いと思うので役立つと思います。
3. 簡単に素早く採点してくれてさらに例文も出してくれるので英作文を初めて書く人や、内容や構成に困っている人がいたらとても便利で使いやすいなと思いました。
4. 自動採点システムは自分が気づいていない点やエラーなどを教えてくれたり、自分がどこをどのように直すべきなのかがとてもわかりやすく、また、直すことで記憶にもなるので次からのミスの減少につながっていくと思いました。
5. ほかの方の文章を見ることができるので、いい勉強になると思います。どれも質の高い文で参考にしたいと感じるものでした。
6. 自動採点はもう少し具体的に文章でどこがよかった等指摘してくれると嬉しい。
7. すぐ結果が出るためわかりやすくていい。

## 6. 考察

短期大学1年生英語必修科目 Integrated English で2023年度に実施したライティングテストについて、前期始め・後期末の2回分のテスト結果を比較し分析を行った。

リサーチクエスチョン (1) 「ライティングの fluency は事前・事後でどのように変化したか。」については、項目1 (語数) を調査した。その結果、表2のように事後の語数が事前に比べて1.96倍となり、0.1%水準で統計的に有意に増えている。三田&霜田 (2021b, 2022b) 同様、後述する調査項目7の Topic Development での内容の展開力向上により、伝えたい内容が増えたことが総語数の増加につながったことが予想される。

リサーチクエスチョン (2) 「日本人学生特有のエラーの重点指導は、学生のライティングにどのような変化をもたらしたか。」については、項目2から項目4を調査した。

項目2は各ライティングテストで「be動詞エラー」が出現したエッセイと出現しなかったエッセイの数を調べた。その結果、「be動詞エラー」の出現エッセイ数は事前(45件)よりも事後(49件)の方が多くなっているが、100語あたりの「be動詞エラー」数を比較したところ、表4に示す通り、1.21から0.86に減少していた。「be動詞エラー」は簡単には直りにくい文法エラー(例: *I would like to visit the most is Miyagi. A friend of mine is studied in Germany.*)で、重点指導が必要であることが改めて確認された。2023年度は、後期にプレゼンテーション力強化の活動(マインドマップ作成、発表ポスター作り、英文の音読練習)に多くの時間を費やしたため、前年度に比べて実際に英文を書いて練習する時間が十分とれなかったことが、be動詞エラー克服の機会を妨げていた可能性がある。

項目3は事前・事後のライティングテストで because を使用したエッセイ数と、その中の

because 断片文エラーを含むエッセイ数を調べたところ、表5と図1のように、91%（事前：32件中29件）から30%（事後：37件中11件）に減少していることが分かった。これはループリックや「一行日記 because の正しい使い方」で繰り返し指導を行っている成果と考えられる。しかし事後でも11件のbecause断片文エラーがあり、学生が頭では理解していても、必ずしも正しい英文が書けるわけではないことを示している。ライティングテストで英文の内容に意識が集中するあまり、無意識にこの間違いを犯している可能性がある（例：*First, because it is natural. Because, I've never been there.*）。

「項目4」（for example エラー）については、for example を使用したエッセイ数と、その中のfor example エラーを含むエッセイ数を調べたところ、表6と図2のように、for example エラーの割合が、事前では92%（12件中11件）、事後では26%（34件中9件）と大幅に減少している。しかし完全に克服できているわけではない。

for example は「項目7」で取り上げる Topic Development の Detail 文に該当する文を作成する際に多く使われている。for example エラーについてはループリックや「一行日記 for example の正しい使い方」で繰り返し指導を行っており、because 断片文エラー同様、学生たちは理屈では理解しているようだが、実際に英文を書く際には、無意識に書いてしまうようだ（例：*For example, meat pie, pizza and kangaroo meat.*）。

リサーチクエスチョン (3) 「ライティングの内容の質を高める重点指導は、学生のライティングにどのような変化をもたらしたか。」については、項目5から項目7を調査した。

「項目5」（順序を示すディスコースマーカーの有無）については、表7に示すように事後では98.9%の学生が使用し0.1%水準で統計的に有意に増えている。順序を表すディスコースマーカーは事前でも85.2%の学生が使用している。これは2018年公示の学習指導要領で新たに「論理・表現」が高校の英語科目に導入され、学生がディベートやプレゼンテーションに順序を示すディスコースマーカーを入れて文章を作成する機会が増えたことが影響しているものと思われる。学生たちに入学時に高校時代の英文ライティングについてアンケートを行った結果、論理的な文章を書く経験があったという記述が多く見られた（例：「制服か私服かどちらが学校に通うときに適しているのか自分の意見を述べるようなものや、話題に沿った英文を書くものが多かったと思います」「まず初めに意見を明示してからその意見の根拠となる理由がいくつあるのかをはっきりとさせてから理由を述べていく書き方をしていた」）。

「項目6」（その他のディスコースマーカーの数）については、表9に示すように、事後にマーカー総数では3.1倍となり、0.1%水準で統計的に有意に出現数が増加した。これは、ループリックや「一行日記 ディスコースマーカー」で論理表現を含む具体的なディスコースマーカーの使い方を指導した成果と考えられる。

「項目7」（Topic Development）については、表10および図3で示すように、事後に0.1%水準で Topic Development が統計的に有意に上昇していた。エッセイの内容を深める指導としては、ループリックや「一行日記 Topic Development」、自動採点システムでレベルが2から4までのモデル英文を「典型事例」として提示して自分の英文と比較させることが、内容を



深化させる方法を学生が自ら学ぶ機会となったと考えられる。

表12から表16は自動採点システムとモデル英文が授業で導入される前の2021年度と、授業で導入されるようになった2022年度、2023年度の各レベルの事前・事後のエッセイ数と割合を示している。試験時間は2021年度と2022年度が15分間であったが、十分な時間が確保されていないという判断から、2023年度は20分間に拡大した。事前のライティングテストのLevel 0のエッセイ（未完成または理由が2つ）が、2022年4月に比べて2023年4月で大幅に減っているのは、それが影響している可能性がある。一方、事後のライティングテストの結果については、2022年度と2023年度で試験時間に違いがあるにも関わらず、2021年度に比べてどちらもLevel 4のエッセイが大幅に増えている（49%）。

リサーチクエスション(4)「学生のアンケートからわかったことは何か。」については、選択回答式、自由回答式の2つの方法でアンケートを行った。選択回答式のアンケートは集計し、また自由回答式アンケートは学生のコメントについてテキストマイニングを用いて分析した。

選択回答式の「英文ライティング強化に役に立った項目」については、because, for example, be 動詞エラーなどについて繰り返し指導した「指定文法エラー」を選んだ回答が最も多く（62件）、次に「ディスコースマーカーの使い方」（56件）、「3つの論理（抽象と具体、対比、因果関係）」（34件）であった（表17）。指定文法エラーとディスコースマーカーは、ループリックのシートでもエラー文と正しい文を併記し、ライティングテストにおける点数配分にもこれらの項目が含まれていたため、覚えようとする意識を高めた可能性がある。「ループリックは役に立ったか」については88回答中70件が「役に立った」と回答している（表18）。また英文を入力すると採点結果と先輩のモデル英文が瞬時に表示される「自動採点システム」については、88回答中67件が「ライティング力向上に役に立った」と回答している（表19）。

「英文を書くことの自信」を事前事後で比較した結果、「英文を書くことは苦手だし全く自信がない」とする回答が事前で総回答の80%であったのに対し、事後では27%に減少した。一方「英文を書く練習をしてきたので少し自信がついている」については事前に16%の回答であったが、事後に58%に増えている。書く練習を重ね、またライティングテストでまとまった語数の文章を書けるようになったことがある程度の自信向上につながっている可能性がある（表20）。

自由回答式アンケートの4項目から得られた学生のコメントについては、テキストマイニングにより内容分析を行った（図5～8）。

「ループリックの役に立った点」に関しては、多くの学生がディスコースマーカーの使い方、評価項目が具体的に書かれている点、点数が明記されていること、指定文法エラーの例を挙げている。学生に配布したループリックには、語数の基準となる数値、指定文法エラー、because エラー、for example エラーの誤りの例、またディスコースマーカーの例など、すべての項目に解説と配点が記載されており、これらの詳細な指標がライティングテストの準備に

役立ったと思われる (Appendix).

「ループリックの感想」に関しては、良い点としてループリックによって自分の英文のどの部分が点数につながるかがわかること、注意すべき間違いの例があること、苦手項目の注意点を確認できること、また特にディスコースマーカのリストが役立ったことなど多岐にわたり、それぞれの学生が必要な情報をループリックから読み取って利用していたことがわかる。ループリックの授業への導入は2年目となるが、前回同様に学生のライティング力向上に有効であることが確認できた。

「モデル英文で参考になったこと」に関しては、モデル英文の様々な表現、理由、具体例、過去の体験や経験を加えることで話を広げ内容を深める方法、そしてそれが説得力とオリジナリティにつながるなどが挙がっていた。自動採点システムのフィードバックとして過年度の学生の書いた良質な英文を「典型事例」として用いることが「学習促進効果」のあるフィードバックとして効果的に働いたと言えるだろう。今後も、手本となる良質なモデル英文をフィードバックの中に取り入れ、学生の自己評価力の向上につなげていきたい。

「自動採点システムの感想」に関しては、優れたモデル英文を参考にして完成度の高い英文を作るのに役立った、「内容の質」が点数化されるので何回も書き直して内容を精査できた、即時に採点されるので便利である、ミス削減に役立つことなどが挙げられている。自動採点システムの感想コメントで「文法の採点は Grammarly でもやってもらえるけれど、内容の質を採点してもらえるものはなかなか無いので役立つと思う」といった学生の感想が見られ、「内容の質」を測る自動採点システムが評価されたことは今後の研究の後押しとなる。引き続きシステムの開発と研究に取り組んでいきたい。

今回導入して2年目となるライティングテストのためのループリックと自動採点システムに関する学生のアンケート結果から多くの示唆を得ることができた。本授業で使用したループリックは、目標を可視化し学生の学習促進を意図して授業の内容に合わせて作成したものである。学生は教師の予想以上にこのループリックをライティングテストの準備のために使用しており、それが「形成的評価」に大いに役に立っていたことが明らかになった。また、自動採点システムについては、導入前 2021 年度学期末の Level 4 のエッセイが 24%、導入後の 2022 年度、2023 年度の Level 4 のエッセイがはどちらも 49% と明らかな増加が見られ (表 14, 16)、このシステムが「内容の質」向上に貢献したことが確認された。

## 7. 終わりに

短期大学英語必修科目においてライティング評価のためのループリックを取り入れた指導、またライティングの「内容の質」を測る自動採点システムを学生に使用させた結果の実践報告を行った。年度初めと年度末に実施したライティングテストでは、語数、because 断片文エラー、for example エラー、順序を表すディスコースマーカ、その他のディスコースマーカ、Topic Development いずれにおいても、大幅な改善が見られた。また be 動詞エラーに

については一定の改善が見られた。学年末に実施した学生アンケートでは、ループリック、自動採点システム、過年度の学生の英文の典型事例いずれにおいても学生の英文ライティング方向のため有効に機能したと推測できるコメントが得られた。また「英語を書くことについての自信」がある程度高まったことが確認された。短期大学での初年次英文ライティング教育は2023年度を持って終了することになったが、次年度以降の4年制大学での英語教育に活かされることになった。引き続き初年次英文ライティング指導についての調査研究を行っていきたい。

## 注

1. Integrated English は、短期大学の全学必修英語科目で、Integrated English a (1年前期)、Integrated English b (1年後期) を開講している。前後期とも週2コマの授業で、そのうち1コマは日本人教員、もう1コマは外国人教員が担当する。
2. 「形成的評価」は、ブルーム (アメリカの教育心理学者) の提唱した「完全習得学習 (マスタリー・ラーニング)」の考え方を背景としており、「子供の学習や教師の授業方法、あるいはカリキュラムなど、教育課程の途中において行われている活動の改善を目的としている (西岡他, 2015, p. 53) .
3. KH Coder とは、計量テキスト分析またはテキストマイニングのためのフリーソフトウェアである。

## 参考文献

- 安藤輝次. (2014). ループリックの学習促進機能. *關西大學文學論集*, 64 (3), 1-25.
- 石井雄隆・近藤悠介. (2020). 「教室における指導と自動採点」石井雄隆 & 近藤悠介 (編) 『英語教育における自動採点 -- 現状と課題』 (pp.117-130). 東京: ひつじ書房.
- 岩田貴帆. (2020). 協議ワークを取り入れたピアレビューによる学生の自己評価力向上の効果検証. *大学教育学会誌*, 42 (1), 115-124.
- 岩田貴帆. (2022,6月). 学生の自己評価力を向上させうる教授法の特徴と課題の検討. 大学教育学会口頭発表, 岡山理科大学.
- 江口真理子. (2012). 内容分析の手法を用いたライティング・ループリック具体化の試み. *総合政策論叢*, 24, 73-84.
- 小林雄一郎. (2009). 日本人英語学習者の英作文における because の誤用分析. *関東甲信越英語教育学会研究紀要*, 23, 11-21.
- 小林雄一郎, & 石井雄隆. (2019). 英語ライティング指導のための自動フィードバックシステムの開発に向けて. *日本大学生産工学部研究報告*. B, 52, 7-15.
- 齋藤雪絵. (2017). 自動採点システムを使った英語ライティング学習. *立教大学ランゲージセンター紀要*, 38, 63-74.

- 坂本優子. (2019). 高校生を対象とした自由記述式英作文のルーブリックの開発とフィードバック効果の検証. Retrieved from <https://www.edu.yamanashi.ac.jp/wp-content/uploads/2019/12/f39efdb1dc191c41facf439d7aecf19b-2.pdf> (2024年1月23日閲覧)
- 関きみ子. (2006). Writing 学習における問題点とその解決法を探る (1)-FORM に於ける母語の干渉を中心として. *長崎外大論叢*, 10, 181-195.
- 関きみ子. (2007). Writing 学習における問題点とその解決法を探る (2)-FORM に於ける LEVEL 1 の干渉を中心として. *長崎外大論叢*, 11, 93-108.
- 丹原惇, 斎藤有吾, 松下佳代, 小野和宏, 秋葉陽介, & 西山秀昌. (2020). 論証モデルを用いたアカデミック・ライティングの授業デザインの有効性. *大学教育学会誌*, 42 (1), 125-134.
- 投野由紀夫 (2007). 『日本人中学生一万人の英語コーパス JEFLL Corpus—中学生が書く英文の実態とその分析』東京：小学館.
- 中谷安男. (2020). 『大学生のためのアカデミックライティング・ストラテジー』東京：金星堂.
- 西岡加名恵, 石井英真, & 田中耕治. (2015). 『新しい教育評価入門人を育てる評価のために』東京：有斐閣コンパクト.
- 平林健治. (2016). CEFRL J A2 レベルの自由英作文のルーブリックに関する研究. *日本教科教育学会誌*, 39 (2), 61-70.
- 松下佳代. (2014). 学習成果としての能力とその評価：ルーブリックを用いた評価の可能性と課題. *名古屋高等教育研究*, 14, 235-255.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2021a). 学生の習熟度別英文ライティング力向上の分析——弱点克服の重点的指導によるライティングの変化. *実践女子大学短期大学部紀要*, 42, 63-83.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2021b). 学生の英文ライティング力向上の分析 その2：文法・構造・論理の重点的指導によるライティングの習熟度別変化. *Jissen English Communication*, 51, 14-46.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2022a). 英語初級学習者のパラグラフ・ライティング評価基準の確立を目指して. *実践女子大学短期大学部紀要*, 43, 65-83.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2022b). 学生の英文ライティング力向上の分析 その3：文法・構造・論理・内容の質の重点的指導によるライティングの習熟度別変化. *Jissen English Communication*, 52, 13-48.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2023a). 英語初級学習者のパラグラフ・ライティングのための自動採点システム開発の試み—英文の内容の質に特化した学習モデルの作成手法. *実践女子大学短期大学部紀要*, 44, 39-67.
- 三田薫 & 霜田敦子. (2023b). 学生の英文ライティング力向上の分析 その4：ルーブリックを用いた指導と「内容の質」を測る自動採点システム導入によるライティングの変化. *Jissen English Communication*, 53, 2-35.
- 三田薫 & 霜田敦子. (in press). 英語初級学習者のパラグラフ・ライティング自動採点システム開発の試み Part2…英文の内容の質を測るシステムの更新と英文の質向上の分析.
- 吉田武大. (2011). アメリカにおけるバリエーションルーブリックの動向. *関西国際大学教育総合研究所紀*

要叢書, 4, 1-12.

脇田里子. (2016). ライティング・ルーブリックの実践. *コミュニケーレ*, 5, 21-50.

山内真理, & 内田充美. (2011). 日本人英語学習者の中間言語にみられる LEVEL 1 の痕跡. *千葉商大紀要*, 49 (1), 43-56.

Dikli, S. (2010). The nature of automated essay scoring feedback. *CALICO Journal* 28 (1), 99-134.

Iwanaka, T. (2016). Rewriting based on feedback: Automated-computer based feedback on forms and tailor-made feedback on content. *中国地区英語教育学会研究紀要*, 46, 61-70.

Li, Z., Link, S., & Hedleheimer, V. (2015). Rethinking the role of automated writing evaluation (AWE) feedback in ESL writing instruction. *Journal of Second Language Writing*, 27, 1-18.

Mita, K., Kubota, Y., & De Vera, L. (2018). Analyzing LEVEL 1 traces in the errors of Japanese EFL learners' written English. *Jissen English Communication*, 45, 25-44.

Panadero, E., & Jonsson, A. (2013). The use of scoring rubrics for formative assessment purposes revisited: A review. *Educational research review*, 9, 129-144.

Rust, C., Price, M., & O'Donovan, B. (2003). Improving students' learning by developing their understanding of assessment criteria and processes. *Assessment & Evaluation in Higher Education*, 28 (2), 147-164.

Weigle, S. (2013). English as a second language writing and automated essay evaluation. In Shermis, M., & Burstein, J. (Eds.), *Handbook of automated essay evaluation* (pp. 36-54). New York: Routledge.

Wiseman, C. S. (2012). A Comparison of the Performance of Analytic vs. Holistic Scoring Rubrics to Assess LEVEL 2 Writing Iranian. *Journal of Language Testing*, 2 (1), 59-92.

## Appendix

以下の表は、現在開発中のルーブリックである。内容の各項目のレベル別の語数については、平林 (2016) を参考にした。

## ライティングテストのルーブリック(20点満点)

評価観点	評価項目	0点	1点	2点	3点	4点	評価
ディスコースマーカー	その他のディスコースマーカー	無し	1つ使用	2つ使用(違うもの)	3つ以上使用(違うもの)		/3
指定文法エラー	主語・動詞エラー	ある		無し			/2
	for example エラー	ある		無し			/2
	becauseエラー	ある		無し			/2
語数	語数	未完成、理由が2つ以下、単語羅列で意味不明	45語以下	46語以75語以下	76語以上116語以下	117語以上	/4
内容の質	Topic Development	未完成、理由が2つ以下、単語羅列で意味不明	3つの理由はあるが、Detail文がない	各理由にDetail文が少しあるが、内容が限定的	各理由に複数のDetail文がありトピックが発展し内容が深まっている	3の中で特に優れているもの	/4
句読点・段落の区切り方	句読点、大文字と小文字の区別の間違い	ある		無し			/2
	冒頭の下下げ、改行の場所	正しくない	正しい				/1
合計			英検2級ライティングテスト問題でテーマに沿った内容と構成で80語以上書けていたらプラス5点(合計上限100点)				/20

ライティングテストで必ず使う表現(この表現以外を使うと減点となります)  
 冒頭の文: 最初に字下げ(3~5文字) The place I would like to visit the most is ... There are three reasons.  
 順番のディスコースマーカー: First, Second, Lastly,  
 末尾の文: For these reasons, I would like to visit ...the most.

ライティングテストのルール(このルールを守らないと減点となります)  
 1) 語数を稼ぐために同じような内容を繰り返す。 2) 3つ目の理由を書いた後に、語数を増やすために別の話を書く。

<p>指定文法エラー:</p> <p>(1)主語・動詞エラー</p> <p>1. × New year is very busy. (「〇〇」を主語と思い込む間違い)          ○ The New Year is a very busy season. または          ○ We are very busy in the New Year.</p> <p>2. × I am Tapioca drink. (うなぎ文間違い: 僕は饅だ)          ○ I'd like Tapioca drink.</p> <p>3. × Yokohama is many famous place. (haveの代わりにbe間違い)          ○ Yokohama has many famous places.</p> <p>4. × I watched the movie is four weeks ago. (動詞が2つ間違い)          ○ I watched the movie for weeks ago.</p> <p>5. × I would like to visit the most is Korea. (主語に主格名詞ない)          ○ The place I would like to visit the most is Korea.</p> <p>6. × Takeshi was lived in Nerima. (とりあえずbeを入れる間違い)          ○ Takeshi lived in Nerima.</p> <p>7. × There are very beautiful. (There構文の動詞の後は必ず名詞)          ○ They are very beautiful. (They areの後なら形容詞でもOK)</p> <p>(2) Becauseエラー (英語ではBecause文のみはアウト)</p> <p>1. × Because I want to study English there.          ○ I will go to Hawaii because I want to study English there.</p> <p>2. × 英語を勉強したいからハワイに行く: I want to study English because I will go to Hawaii. (becauseの前後が逆)          ○ I will go to Hawaii because I want to study English there.</p> <p>3. × The First is because I want to study English there. 多発エラー          × The first reason is because I want to study English there. 多発          ○ First, I want to study English there.</p> <p>(3) For exampleエラー (英語では「For example, モノ。」は誤り)          × Hawaii has many delicious foods. For example, pancakes and loco moco.          ○ Hawaii has many delicious foods, such as pancakes and loco moco.          もし文頭にFor example, を使う場合は、主語+動詞の文を続ける。          ○ Hawaii has many delicious foods. For example, pancakes and loco moco are so popular.</p>	<p>順番のディスコースマーカー          「第1に、第2に、第3に」 First, Second, Lastly,</p> <p>その他のディスコースマーカー例          「実のところ」 Actually,          「特に」 Especially, In particular,          「例えば」(文中では) such asがおすすめ。文頭のFor example, For instance, を使う場合は、主語+動詞の文を続ける。          「でも」 However, 「それに加えて」 Additionally, In addition,          「なぜなら」 because ..., As ..., Since ... 「そのかわりに」 Instead,          「さらに」 Moreover, Furthermore,          「一方、対照的に」 On the other hand, In contrast,          「その結果」 As a result, Therefore, Thus, 「強調表現」 Of course,</p> <p>句読点のルール・フォーマルな文では短縮形は使わない          (1) ビリオド × I was born in <u>Nagoya</u>. ○ I was born in <u>Nagoya</u>.          (2) 疑問符 × When did you see <u>Mary</u>? ○ When did you see <u>Mary</u>?          (3) コンマ (but, or, so の前)          × Susan cried for <u>help</u> <u>but</u> no one came.          ○ Susan cried for <u>help</u>, <u>but</u> no one came.          × <u>However</u> I failed the exam. ○ <u>However</u>, I failed the exam.          (文頭のディスコースマーカーの後は必ずコンマを入れる)          (4) 大文字のルール(文のはじめ、固有名詞)          × <u>the train</u> arrived late today. ○ <u>The train</u> arrived late today.          × <u>Madrid</u> is the capital of Spain. ○ <u>Madrid</u> is the capital of Spain.          (5) 短縮形 × I've <u>been</u> there twice. ○ I <u>have been</u> there twice.</p> <p>段落の区切り方のルール          パラグラフの場合: 最初だけ字下げ(3~5文字)、最後まで改行しない。          エッセイの場合: (200語以上の場合) 最初に字下げ、本論のFirst, Second, Lastly, と結論(For these reasons,...the most.)でも字下げ。</p>
---	---